



「スマホクリエイターズLab.」は、村と住民が一緒に地域を面白くする取り組み「東海村つながるプロジェクト(T-project)」から生まれた企画です。プロの講師から撮影技術や記事の書き方、SNS等を活用した情報発信スキルを学んだ住民ライターが、まちづくりに参加し、村の魅力を発信しています。あなたもぜひ一緒に活動しませんか。※第2期生募集について、詳細は「広報とうかい」(6月10日号)でお知らせします。



スマホ
クリエイターズ
Lab.



東海村
つながる
プロジェクト



高校生への
インタビュー
記事(全文)



記事の作成に当たり「スマホクリエイターズLab.」から3人の住民ライターの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

今回の取り組みを振り返って…
いばたんを通して東海村の魅力を発見することができました。皆さんに早く撮影に協力していただき、東海村に住む方々の温かさを感じました。



▲動画はこちら



▲県立東海高等学校「チーム東海モンキーベイベーズ」の皆さん



今回の取り組みを振り返って…
何事も勢いが大事だということを学びました。自分をしっかりとアピールできるよう、今後、もっとコミュニケーション能力を磨いていきたいと思います。



▲動画はこちら



▲県立東海高等学校「チーム理想の彼女を求める者」の皆さん



なぜ探検隊シリーズにしたの？
他のチームとの違いを創り出すのが難しかったからです。他のチームも当然東海村のいいところを取り上げますから。少し視点を変えて、ギャグ的な要素も入れようと、みんなで「探検隊シリーズ」に決めました。

探検隊の隊長が、謎のペールに包まれたイモゾーを追って東海村の名所を巡る作品。歴史と未来の交流館や村松海岸、村松虚空蔵尊などを訪れながら、イモゾーの足跡を追います。果たしてイモゾーに出会うことはできるのか！？



「妄想デート」の企画は、どうやって思い付いたの？
最初は東海村の自然を紹介するだけの作品でした。波の音を効果的に使っていることを評価され、企画をブラッシュアップしました。「妄想デート」というワードは先生の発案です笑。
撮影を振り返って、思い出に残っているエピソードは？
全編通して恥ずかしさとの戦いでした。浜辺で叫ぶシーンがあるのでありますが、近くにいた釣り人がみんなビックリしていました。



高校生が「キリトル」まちの魅力

まちづくり×高校生

高校生が「東海村の魅力」を動画で紹介
みんなにもっと知ってほしい
わたしたちのまちのこと

わたしたちが住んでいる「まち」の魅力って何だろう。普段の生活の中ではなかなか気付かない「まちの魅力」を、高校生が探し出し、動画で情報発信しました。高校生が等身大の視点で見つけた「東海村の魅力」を、この機会にぜひご覧ください。

【問い合わせ】地域戦略課プロジェクト推進担当(☎282-1711 内線1338)

「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト 2022」 受賞作の中から東海村が登場する3作品をご紹介します

「茨城の魅力を探究し発信する高校生コンテスト(通称 いばたん)」は、茨城大学人文社会科学部が主催する、高校生と大学生が主役となる地域貢献・まちづくりプロジェクトです。県内の高校生が地域に飛び出し、地域の魅力を発見・深掘りして、その成果を動画作品などにまとめて発表しています。2022年度は、エントリーされた全417作品のうち本選に進んだのは21作品。その中で、東海村を題材に制作された3作品全てが受賞しましたので、ご紹介します。



▲いばたんの詳細はこちら

なぜサツマイモをテーマにしたの？
東海村の歴史を調べようと、歴史と未来の交流館(生涯学習課)を訪ねた際に、今まで見たことがなかったサツマイモのパンフレットを見つけ、「コレだ！」と思いました。
初めてのインタビューはどうでしたか？
生涯学習課の職員の方が取材に同行してくれたおかげで、貴重なお話を伺うことができました。デジタル化が進む社会ですが、直接聞いた「コトバ」には、かけがえのない価値があると感じました。
今回の取り組みを振り返って…
「東海村には何もない」という人もいますが、特産であるサツマイモ一つを取ってみても深い歴史があり、今につながっていることに興味湧きました。もっと村のことを知りたいと思います。



▲動画はこちら



▲水城高等学校「チーム大都会東海」の皆さん



東海村とサツマイモ

サツマイモの生産が盛んな東海村に焦点を当て、サツマイモのお菓子作りと東海村文化財保護審議会の萩谷信輝会長へのインタビューで構成された作品。「サツマイモはいつから東海村に根付いたのか?」インタビューを通して東海村とサツマイモの歴史をひもといていきます。